

活動報告書

6月号 2022.5.31

倫理経営講演会(5/21)

石川元章 法人アドバイザー



『経営力を磨く-求められる経営者の資質-』

5月21日CSA会議室にて倫理経営講演会が開催されました。第一部:朝礼実演では、朝礼の様子を動画で流した後、代表がコメントする形式でした。一社目の飯塚幹事は朝礼導入の躊躇は自分一人の杞憂だったと話し、二社目の三浦会長は職場の教養で過去の記事と絡めた感想が社員から聞かれたと話しました。第二部:講演会は、沖縄から来た石川元章法人アドバイザーの明るく楽しい講話でした。4年に1度「会社が変わるために」社内で匿名アンケートを行なうそうです。ありがとうございます、ごめんね、愛してる。身内ほど気を遣いなさい、との教えでした。

松濱さん、スピーチ



5/21、中部地区青年セミナーにて、当会の松濱会員がスピーチしました。毎回MSIに参加して気付きを貰った言葉を自分の仕事に落とし込む実践をしているそうです。第2象限の実践の話は「未会員に是非聴いてもらいたい内容だ」という感想

が多く聞かれ、7/2に静岡市MSで講話して頂く運びとなりました。

倫理実践・体験報告



先月、私の大切な友人の一人が単独登山の最中に滑落して亡くなりました。享年63歳でした。家族に行き先を告げずに出掛けたので発見が遅れ、一時、行方不明となっていました。その頃私は彼の事を心配しつつも普段通りの生活を送っていましたが、ある日仕事で車を運転していて、赤信号を無視して飛び出してきた自転車の男の子をもう少しで轢きそうになる体験をしました。もし私が青信号を妄信してアクセルを踏み入れたら大事故に繋がります。二度と同じ仕事を続けることが出来なかったと思います。それは、ある意味、社会的な死を意味します。後日、遺体発見の知らせを受け、他の友人たちとお通夜に参列しました。ただただ悲しかったです。その時、私の頭に浮かんだのは「紙一重だ」ということでした。友人も、滑落したのは本意ではなく、ほんの一瞬の出来事であつたはず。紙一重で逝った友人、紙一重で生きている(生かされている)自分。ふと志賀直哉の小説「城崎にて」の主人公は、あるいはこんな気持ちではなかったか、と思い当たりました。葉の17条「人生神劇」に、小説や映画などは、この人生劇の一部を切りとって解説した説明書である。これを手引きに、地球座人生劇場の、心理の芸術を、満喫しては如何であろう、とあります。悲しい体験ではありましたが、「ならば、今ここ」という思いも強くなりました。(幹事 小吹真司)

配布責任者 三浦 健二郎

MS ピックアップ

5月21日 柴田 聡氏



『武道・仕事を通じて学んだ感謝の心』

倫理の皆さんに自分を知ってもらいたいという思いで講話しましたと話す、柴田聡会員。ずっと続けてきた極真空手を中心に、仕事やご家族に関する柴田さんの半生のお話でした。27歳の時に優勝候補筆頭で臨んだ静岡県大会の準々決勝で伏兵に敗れます。数年後、3段昇格のための30人組手の前に映画「武士の一分」や知覧特攻隊の本を読み、当時の自分の甘さや弱さに初めて気付いたと言います。現在、極真空手4段。「礼儀正しく元氣よく」をモットーに、服織道場で小学生に空手を教えています。伝えることで伝えられると話します。

クリーン大作戦(5/15)



本日は第3日曜日、朝7時から静岡駅前の朝清掃の日です。約5年は続けているので、もはやルーティンです。そのあとは小さな平屋の完成見学会でした。仕事ができる事に感謝です!(幹事 平岡伸浩)

※次回は6月19日(日)朝7:00~ホテルアソシア前です。